

ふるさと波佐見のこれからを語る

3年総合的な学習の時間 波佐見町活性化の取組を提案

波佐見中学校学校便り
豊かな生活切實、よき未来の創手となる生徒の成長

第9号
編集・発行
波佐見中学校
校長 池本敦司

波佐見焼の現状について説明する講師の先生 6月21日 ウェイブホールにて



提案までの経緯

3年総合的な学習の時間。生徒たちがふるさと波佐見の現状と課題を整理し町を活性化について前川町長、西海陶器の児玉さん、スチームシッポの藤山さんたちにプレゼンテーションを行いました。昨年度の3年生も同様の取組を行い、町のキャラクターはちやまるの効果的活用を提言しました。今年も3年生は我が

波佐見焼の昔と今を学ぶ

1年生 総合的な学習の時間

6月21日1年生の総合的な学習の時間(焼き物文化体験事業)に波佐見町教育委員会の中野さんと波佐見焼振興会の山下さんをお迎えし、波佐見焼の歴史と現在の状況について話をさせていただきました。その後、生徒からの質問に答えていただきました。「波佐見焼の始まりは今の榊木場郷付近だったらしい」とか「世界最大級の登り窯のトップ3はすべて波佐見町にある」など私も初めて知ることが数多くある時間でした。この学習は、今後10月の畑の原での焼成活動に続いていきます。

自分たちの提言をプレゼンテーションする生徒 6月20日 ウェイブホールにて



当日の提案

人口減少を食い止めるには、観光客を呼び込むには：など、客観的なデータも駆使しながら、大人に説明をしました。前川町長、児玉さん、藤山さんは、生徒からの提言を正面から受け止め、それに対して丁寧な回答やアドバイスをしてくださいました。また、今波佐見に住んでいて感じる課題や不安を「どうするか」考えることはビジネスにつながる視点であるということも、普段の学校生活ではなかなか学べないことだったのではないかと感じました。

県学力調査結果公表(2年国・数3年英)

4月に実施された県学力調査の結果が公表されました。結果を分析し今後の指導に生かしていきます。県全体の課題として、国語は「話の展開を捉えて条件に合わせて書く」こと、数学は「数学の用語を正しく理解する」「データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること」、英語は「目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る」「目的に応じて、自分の考えを英語で書く」ことがあげられています。波佐見中学校では点数化できる力はもちろんです。点数化できない力(学習環境・安心して授業を受けられる人間関係など)も含めて総合的に向上させていきたいと思えます。(波佐見中学校は2年の国数で県平均を上回りました。)

校長日記

生徒からの提案のなかには、すでに課題解決に向けて取り組まれているものもあり、生徒たちがこうすればよくなると思っていることが実現に向けて動き出しているということも知ることができました(石膏型の再利用や医療関係の充実に向けた動きなど)。生徒からはいわゆる「お願い事」ばかりではなく、自分たちができることや自分たちも参加することなどが多く提案され、その部分を大きく評価していただきました。大人と子供が町づくりや町の未来について語り合える波佐見は素敵です。

「波中生のよいところは？」こう聞かれたら皆さんはどう答える？多くの人が「挨拶」をあげるのでは？でも、その実感ありませんか？▼トークセッションの中でパネラーの方が「都会から波佐見に来た方が驚くことは子供たちが知らない人に元気よく挨拶をすること」と話された▼挨拶をするのは波佐見では当たり前。波佐見の子供たちがあたり前にできている挨拶。これは自信を持っていいし誇れることであることを改めて実感。私も元氣よく挨拶するぞ！